

箕面市教育大綱別紙 2022 の中間報告

学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

① 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

- ◆外国人の英語指導助手をすべての小学校に3～5人ずつ、中学校に3～4人ずつ配置する全76人体制を目指すとともに英語専科加配を全14小学校に配置する。
- ◆チームティーチングや少人数での英語活動を行い、児童生徒に高い英語力を習得させる。
- ◆多文化理解も深めながら、英語で自分の考えを表現する実践的なコミュニケーション能力の基礎を築く。

令和4年度上半期取り組み

- 一般財団法人自治体国際化協会が実施する「語学指導等を行う外国語青年招致事業(JETプログラム)」等を活用し、計76人の英語指導助手を小中学校に配置することで、英語に身近に触れる学習環境を整えました。(2学期時点)
- 今年度より中学校英語コミュニケーション科向けオリジナル指導案集である「Hold Hands for JHS」の活用を開始し、4技能統合型の授業を実施しました。
- 英語担当者会(小学校英語専科教員、中学校英語コーディネーターが参加)では、ALTとのチームティーチングの効果的な方法、授業プランなどの意見交流をしました。
- 小学校英語専科加配を全14校に配置し、専門性を有する教員による、質の高い英語教育を実施しました。

今後の方向性

- ▶ 昨年度と同様に、イングリッシュタウンは人数制限をして、1～2クラスごとに実施する予定です。
- ▶ 英語で自分の考えを表現するイングリッシュ エクスプレッション コンテストを11月5日に大阪大学箕面キャンパスで実施する予定です。

② ICTを活用した情報活用能力の向上

- ◆1人1台のタブレット端末を円滑にストレスを感じることがなく活用できるよう校内ネットワーク環境の拡充に努め、オンライン授業のさらなる充実・工夫を図る。
- ◆デジタルドリルを活用した個別最適化学習や持ち帰り学習などの取り組みを引き続き進め、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成する。
- ◆これまでに蓄積してきた個々の学びのデータを分析し、学習支援に活用する。

令和4年度上半期取り組み

- 普段の授業や災害時に一般開放することが可能な可動式 Wi-Fi を、各校の特別教室に3～4台ずつ配備し、校内ネットワークに接続できる教室が増え、体育館、理科室等でもオンライン接続が可能となりました。
- 特別教室でも安定したオンライン授業配信ができるよう、各小学校に複数台のオンライン配信用タブレット端末を導入しました。

- 令和元年度より4校(箕面小、北小、一中、彩都の丘学園)をモデル校で取り組んできた「学校における先端技術の活用に関する実証事業(「次世代の学校、教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」)」の内容を継続するため、教員養成フラッグシップ大学である大阪教育大学と連携し、文部科学省が公募した「令和4年度 学校における先端技術活用事業」に応募し、採択されました。
- 学校現場において教職員が利用する学習系端末と校務系端末を統合し、1台の端末で学習系ネットワーク、校務系ネットワークの両方が利用できる方法に関して、システム構築にかかる費用等の課題を検討しました。
- オンライン授業のさらなる充実に向け、tomoLinksの改良を行い、教員が子どもたちの課題配布シートに対して評価スタンプを送れるようにしました。
- 小学5・6年生で、夏休みの宿題として算数のデジタルドリルの活用を行いました。

今後の方向性

- ▶ 特別教室でも安定したオンライン授業配信ができるよう、全中学校および小中一貫校へオンライン配信用タブレット端末の導入を2学期中に行います。
- ▶ 「令和4年度 学校における先端技術活用事業である、AIによる成績予測やAIカメラによる授業の可視化など」について、実証校との調整を行い、研究を進めます。
- ▶ 大阪教育大学と協力し、AIによる学習予測や授業分析の観点についての助言をいただくとともに、若手教員の育成に重要なノウハウを共同研究します。
- ▶ 学校現場において教職員が利用する学習系端末と校務系端末を統合する方法を、引き続き検討します。

③ 体力向上を図る取り組み

- ◆副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みや、小・中学校の箕面子どもステップアップ調査の分析結果を活用して、体を動かすことが大好きな子どもを育てていく。
- ◆熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図る。

令和4年度上半期取り組み

- 民間スポーツ団体のコーチを講師として招いて、副読本指導書を活用した授業づくりに関する集合研修会を7月に萱野東小で実施しました。
- 小中の接続を意識するため、これまで小学校の体力向上担当者向けに、子どもの体力の現状と課題・優れた授業実践の共有を図る場として開催していた体力向上推進部会を、各中学校の体力向上担当者にまで対象を拡大しました。
- 箕面市体力運動・能力調査を実施しました。

全国平均を上回った種目	実施学年	全国平均を上回った学年
上体起こし	小5～中3	中2(女子)
長座体前屈	小5～中3	小6(男女とも)
立ち幅跳び	小1～中3	小3(女子)

- 北小学校をモデル校として、天候に左右されない民間プール施設(かやの中央スイミングスクール)で水泳授業を実施し、専門インストラクターの指導による児童の泳力向上を目指した取り組みを試行実施しました。上半期は5、6年生の児童84人を対象とし、下半期に他学年で試行実施していきます。
- 熱中症対策をしながら、3年ぶりに全校でプール授業を実施しました。
- 部活動の在り方について「地域部活動実行委員会」を開催し、第一中学校、第三中学校、彩都の丘学園

において休日の部活動の地域移行に向けた検討を行いました。

- 休日の部活動の地域移行に向けた試行実施を9月3日に実施しました。引き続き、実践及び検証を行います。

今後の方向性

- ▶ 10月に体力調査結果から見えた現況と課題の共有を図るため、小学校体力向上推進部会、中学校体力向上推進部会を開催します。
- ▶ 副読本・指導書の効果については、箕面市体力運動・能力調査の結果を分析し、その結果を11月ごろに箕面市ホームページに掲載します。
- ▶ 民間プール施設を活用した授業は、児童・保護者から非常に高い評価を得ることができました。引き続き、かやの中央スイミングスクールと課題を共有しながら改善を図っていきます。
- ▶ 民間プール施設を活用した水泳授業について、児童・教職員・保護者へのアンケート調査や通知表の評定を分析しながら効果検証をおこない、今後の展開を検討していきます。

(目標)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
目標	顔を付けることができる	けのびとバタ足 12.5m	面かぶりクロール 12.5m	クロール 25m	クロール・平泳ぎ どちらか 50m	クロール・平泳ぎ 50m

- ▶ 部活動の段階的な地域移行の運営主体を民間企業等へ委託することを視野に入れ検討します。
- ▶ 質の高い指導者の確保や地域団体・企業との連携、教職員の兼職兼業について検討を進めます。
- ▶ 民間企業への委託料、受益者負担の適正額及び経済的困窮家庭への補助制度等、休日の部活動の地域移行に関わる費用の検討を行います。

④ 小中一貫教育のさらなる推進

- ◆9年間の連続性のあるカリキュラムの策定や連携型小中一貫教育の推進に向け、小中学校間を一体化した人事配置をより一層進める。

令和4年度上半期取り組み

- プログラミング教育検討委員会を設置し、プログラミング教育での小中一貫教育の方向性について、プログラミング大会の実施等の検討を行いました。
- プログラミング教育におけるカリキュラム策定のため、各校の情報教育研究部員と各校で作成したプログラミング教育の指導案を基に指導集の作成を行っています。
- 昨年度に引き続き、小中学校間を一体化した人事配置を行いました。

	担当
第四中学校 ⇒ 萱野東小学校	支援学級
萱野東小学校 ⇒ 第四中学校	英語専科

- 二中に小中連携担当の体育科教員を配置し、萱野小、萱野北小、北小の小学6年生を対象に体育授業を担当しています。

今後の方向性

- ▶ 引き続きプログラミング教育の指導案等を作成・収集し、プログラミング教育の9年間の連続したカリキュラム策定を進めます。
- ▶ プログラミング大会の2月開催に向けて、計画・検討を行います。
- ▶ 現在、船場に新設する学校の校種に関する判断のため、第三者としての学識経験者に小中一貫教育に関するご意見も頂戴していますので、それらも参考に、全市で小中一貫教育をすすめていきます。

⑤ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

- ◆ 授業力、指導力が傑出している教育専門監(指導員)を市費で配置し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小学校の若手教員を指導する中堅教員に指導助言することで、教員の授業力・指導力の向上を図る。
- ◆ ステップアップ調査等のデータを分析し、教育専門監の増員や中学校への新たな配置に向けて育成に努める。

令和4年度上半期取り組み

- 2名の教育専門監が箕面市内の小学校(西小・萱野東小・萱野小・北小・中小・東小)を巡回し、訪問校の中堅期で授業力のある教員を直接指導(示範授業、チームティーチングでのサポート、授業づくりの助言等)しました。
- 訪問校の研究部長へ校内研究活性化のための助言や、訪問校にて校内研究のあり方について協議等を実施し、校内研究体制の確立を図りました。
- 新たな教育専門監を養成するため、「授業力・指導力」、「授業研究への熱意」、「校内研究を推進する力」など教育専門監としての資質・能力を備えた小学校教員3名を対象に、更なる「授業力・指導力」及び「他の教員の授業を評価し、指導・助言する力」などを養う「指導力向上研修」を実施しました。

今後の方向性

- ▶ 引き続き、指導力向上研修を実施し、教育専門監となるにふさわしい授業力・指導力を備えた教員の育成に努めます。
- ▶ 令和5年度に向けて、教育専門監が巡回する訪問校の選定を行います。

⑥ 35人学級の早期実現

- ◆ 国の動きに先駆けて、令和4年度に小学校4年生を35人学級とし、1年前倒しで令和6年度までに順次、全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築する。

令和4年度上半期取り組み

- 小学校4年生の35人学級推進のため、南小学校、西小学校、萱野東小学校、豊川北小学校、彩都の丘小学校に各校1名ずつ、計5名の教員を市費で配置しました。

今後の方向性

- ▶ 令和5年度は、小学校5年生の35人学級を実施するため、児童数が1学級あたり35人を超える見込の5校(南小、西小、萱野東小、豊川北小、彩都の丘小)に合計5名の教員を市費で配置する予定です。

⑦ 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援

- ◆学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭及び日本語を母語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段や居場所づくり等の支援を実施する。
- ◆いじめの未然防止や支援教育の見直し、充実に向けた取り組みを強力に進める。

(1)いじめ・支援教育・不登校

令和4年度上半期取り組み

- 令和4年4月に箕面市教育委員会から箕面市支援教育充実検討委員会に、「今後の支援教育の在り方について」諮問を行いました。
- 「愛着に課題のある児童生徒の理解と対応について」や「支援教育を日常の関わりや指導にいかすために」を題材とした支援教育に関する研修を全教職員を対象に実施しました。
- いじめの加害・被害に支援学級在籍の児童生徒が多くいたことから、「いじめ事案共有シート」に支援・通級を把握するチェック項目を追記しました。1学期末までに約80件(R3年1学期:92件)の「いじめ事案共有シート」が学校から提出されました。
- いじめの早期発見につなげるために、思いや悩みを管理職や担任等に発信ができる「いじめ未然防止システム」の構築に向けた準備を進めました。
- 「SOSの出し方に関する教育」について研修を実施し、「生徒指導担当者会」でSOSを出すことが難しい児童生徒を認識するために、学校で気をつけていることについて意見交換をしました。
- 市スクールカウンセラー(以降 SC という)と市スクールソーシャルワーカー(以降 SSW という)の勤務形態を見直しました。小学校での SC の勤務回数を月1回(昨年度)から月2回(今年度)に増やし、子どもへのより細かな心理的ケアに努めました。また、SSWにおいては毎週学校へ勤務しながら、学校とより密に連携をとりながら子どもたちへの支援を行いました。
- 不登校児童生徒の状況を把握するため、市内全小中学校へヒアリングを行いました。また、「不登校担当者会」を開催し、全小中学校の不登校担当者に情報提供・共有を行い、不登校児童への今後の支援の手立てについて検討しました。

今後の方向性

- ▶引き続き、箕面市支援教育充実検討委員会を開催し、支援教育の充実について検討を行い、令和5年1月に箕面市支援教育充実検討委員会から、諮問に対する答申をいただく予定です。
- ▶支援教育の充実に向けて通級指導教室の全校設置や、子どもたちの教育的ニーズに対応した適切な個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成できるよう ICT を活用した教育ソフトの導入を目指します。
- ▶引き続き、いじめ重大事態をさらに重篤化させないため、相談体制の充実に関する研修を行うなど、未然防止に力を入れるとともに、学校がいじめを認知した時点で、いじめの概要と対応方針を市に報告するなど積極的認知と早期対応に努めていきます。また、学校、SSW 等関係職員を集め、それぞれが持つ児童生徒の情報を収集し、校務支援システムを活用して学年間及び小中学校間の引継ぎを行うなど、切れ目ない支援を徹底していきます。
- ▶いじめ未然防止システムは、令和5年1月に全校で本稼働する予定です。
- ▶引き続き、不登校児童生徒への個別支援を充実していくため、不登校児童生徒への適切な支援や対応に関する研修を実施していきます。
- ▶「不登校担当者会」を定期的に開催し、不登校問題に関わる情報を学校へ提供していきながら、小中間の連携強化を図ります。また、各校での支援の取り組みの共有や、事例を検討することで、学校が子

どものたちの居場所であり続けられるよう努めていきます。

- ▶ 学期末に全小中学校へヒアリングに行き、不登校問題の状況把握と指導助言に努めていきます。
- ▶ 令和4年6月にいじめ被害者の保護者から独立した第三者調査委員会を設置し、事実関係などの調査を行うよう教育委員会に要望があったため、いじめの重大事態の調査に関するガイドラインに基づき、箕面市いじめ重大事態第三者調査委員会による調査を実施します。

(2)中高連携モデル事業

令和4年度上半期取り組み

- 市配置 SSW と大阪府配置の SSW との連携を検討するために、大阪府立箕面東高等学校をモデル校とした「中高連携モデル事業」を立ち上げ、既存の教員間の引継ぎに加え、どのような連携を図れるかについて意見交換を3回行いました。

今後の方向性

- ▶ 年度末の中高引継ぎ時に生徒の情報をどのように提供するかを検討します。
- ▶ 中退、転学等のリスクが出た際は、必要に応じて市 SSW と府 SSW が連携を図ります。

(3)日本語支援

令和4年度上半期取り組み

- 日本語指導支援事業
児童生徒向け授業サポートなどの日本語指導ボランティアの派遣や、保護者向け懇談会などの通訳者の派遣を実施しました。

以下、9月末時点での実施状況です。※()内は R3年度実績

日本語指導	言語	対象人数	派遣回数
萱野小、東小、西南小、萱野東小、南小、豊川南小、彩都の丘小、一中、二中、四中	英語、中国語、韓国・朝鮮語	11人(6人)	125回(92回)

保護者通訳指導	言語	対象人数	派遣回数
南小、東小、一中、四中	英語、アラビア語、ネパール語 中国語、インドネシア語	7人(9人)	13回(19回)

- 放課後等日本語教室支援事業
日本語指導ボランティアにより、放課後等に児童生徒を対象とした日本語教室を実施しました。
以下、9月末時点での実施状況です。
⇒萱野小、東小、豊川南小、一中、二中、四中

今後の方向性

- ▶ 今後もコロナの状況により、急な転出入が考えられるため、学校からの要請があった場合、速やかに対応出来るよう、引き続きボランティア確保に努めていきます。そのために、箕面市国際交流協会などの機関と連携し、市内の日本語サポートを必要とする児童生徒の情報共有を丁寧に行っていきます。

(4)学習支援

令和4年度上半期取り組み

- 不登校や病気による長期欠席等により学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童

が中学卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、学習を中心とした支援を行う学生サポーターを派遣しました。

委託先	NPO 法人あつとすくーる	株式会社トライグループ
担当校	二中校区、五中校区、 六中校区、とどろみの森学園	一中校区、三中校区、 四中校区、彩都の丘学園
利用者数	61人(90人)	53人(57人)

※()内は R3年度実績

今後の方向性

- ▶ 箕面市子どもステップアップ調査の結果を比較し、委託事業者2者の強み等について検証をします。
- ▶ 引き続き、各関係機関と連携し、学習支援を実施します。

(5)すたさぼ

令和4年度上半期取り組み

- 市立小学校全校において放課後学習支援室「すたさぼ」を開室し、児童が自由に参加して学習ができる場を提供しました。

⇒1日の平均利用者数 R4年度:31人/1校 (R3年度:22人/1校)

今後の方向性

- ▶ 放課後学習支援員に欠員がある学校について、人材確保に努めます。
- ▶ 生活困窮世帯の児童の参加促進のため学校と連携します。

(6)塾代等助成モデル事業

令和4年度上半期取り組み

- 生活保護・児童扶養手当の受給世帯のうち、小学6年生の児童が通う塾やスポーツ教室等の習い事にかかる費用を助成しました。

⇒申請者数 R4年度:52人(R3年度:45人)

今後の方向性

- ▶ 令和元年度から3年間の検証結果もふまえながら、12月実施の箕面市子どもステップアップ調査の結果を基に効果検証をします。

⑧ 持続可能な社会に向けた学習の充実

- ◆新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き学校教育に新しい生活様式を取り入れていく。また、SDGs の 17 の目標を実現していくために、これから社会の主役となる子どもたちが自ら考え、行動できる学びの充実を図る。

令和4年度上半期取り組み

目標4 質の高い教育をみんなに

- 青少年教学の森野外活動センターは、7月30日に「オルタナの森・Minoh」を愛称として、施設の一部が先行リニューアルオープンしました。引き続き、子どもたちの自然体験や野外活動体験を通じた健全育成

事業を実施しています。

目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- 全小中学校(20校)の太陽光発電設備設置工事、屋上防水改修工事に伴う設計委託を実施しました。
なお、太陽光発電設置については、1校あたり約150kW 容量、全校合計で約3,000kW 容量(標準的な一般家庭における1日の消費電力量の約685軒分に相当)の発電設備の設置を予定しています。

目標11 住み続けられるまちづくりを

- 校区探検・お店探検・郷土資料館見学を通じて箕面市のまちづくりと昔の暮らしについて学び、副読本「わたしたちのまち箕面」を活用し、持続可能なまちづくりについて考えを深めました。

目標12 つくる責任 つかう責任

- 学校給食の献立で残食の多いメニューについては、味付けや調理方法等の改善に努めました。
(全校平均残食率)

	米飯	副食	牛乳
令和4年1学期	5.7%	5.0%	4.2%
令和3年度	6.6%	5.4%	6.7%

- 食と健康に関する授業や、食品ロスに関する授業を行い、子どもたちが自発的に残さず食べようという意識を持つよう啓発しました。
- 浄水場やクリーンセンターの見学を通して、ごみの減量やリサイクルを行うことはCO₂削減につながっていることを学びました。

目標16 平和と公正をすべての人に

- 小学校1校・中学校7校が修学旅行で広島・長崎・沖縄を訪れ、平和について学びを深めました。

今後の方向性

- ▶引き続き、給食の残食率を毎月調査し、残食率5%以下を目標として食べ残しの削減に取り組みます。
- ▶2学期以降、小学校13校が修学旅行で広島を訪れ、平和について学びを深めます。
- ▶全中学校で、「住みやすいまちづくり」などをテーマに、市長と意見交換を実施していきます。
- ▶太陽光発電設備については、設計が完了次第、速やかに工事発注・施工を行い、今年度中に竣工する予定です。

子育て施策 家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

① 豊かな人間力を育むための子育て支援

- ◆子どもの権利擁護や健やかな心身の成長の観点から、体罰によらない安心・安全な子育ての啓発や、すべての妊産婦・子どもとその保護者を対象に、個別のニーズ・課題に応じたワンストップの支援を充実・強化する。

令和4年度上半期取り組み

- 厚生労働省チラシ「体罰によらない子育てを広げよう！」を、1歳6か月児健診、3歳6か月児健診の事後指導で配付しました。また、スマートフォン向けアプリ「箕面くらしナビ」にリーフレットを掲載し、周知を継続しました。

＜子どもを叩いて叱るなどの体罰によらない子育てをしている保護者の割合＞

	R2年度	R3年度	R4年度(9月末)
1歳6か月児健診	85.6%	85.3%	87.7%
3歳6か月児健診	70.9%	69.3%	75.5%

- 子育ての方法について、乳幼児健診、子育て支援センター、出張子育てひろば、保育所、幼稚園などで相談に応じるとともに、おひさまメールや子育て応援ブック等を活用し、年齢ごとに応じたタイムリーな情報提供に努めました。
- 子育て世代包括支援センター関係室で、要保護児童、要支援児童、特定妊婦を把握した際には、児童相談支援センターにつなぐ等、関係室で連携して、早期発見、早期対応、早期の支援に努めました。
- 児童虐待通告対応の際、体罰禁止の周知と安全安心な子育てに向けた助言等の支援を行いました。
- 複数課題のある家庭については、児童相談支援センターを中心に要保護児童対策協議会のネットワーク等を活用し、支援ニーズや家庭背景に応じて対応しました。
〔要保護児童対策協議会登録件数〕 要保護：306件、要支援：132件、特定妊婦：4件(9月末時点)
- 令和3年度の「支援対象児童見守り強化事業」の分析結果から判明した未就園の在宅2歳児を育てる保護者への支援策について子育て世代包括支援センター関係室で検討を開始しました。

今後の方向性

- ▶ 乳幼児健診において体罰によらない子育てをしている保護者の割合が増えるよう取り組みを続けます。
- ▶ 「体罰禁止」の周知について、子育て世代の目に届きやすい形を検討します。
- ▶ 引き続き、子育て世代包括支援センター関係室で、在宅2歳児を育てる保護者への支援策について検討を進めます。

② 貧困の連鎖の根絶

- ◆子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関の情報をもとに、支援が必要な子どもを誰ひとり取り残さないよう、教育委員会、学校、各種機関が連携して早期発見に努め、子どもたちを支援し見守りを続けていく。

令和4年度上半期取り組み

- 支援の必要な子どもを早期発見し、支援につなげるため、7月に「子ども成長見守りシステム」のデータ1939件を学校に提供し、学校や関係機関と連携して情報収集し、必要に応じて支援につなぎました。

例えば、ひとり親家庭の保護者が仕事等による多忙のため、放任状態となっている児童や家庭環境により精神的に不安定になっている児童に対して、学校やSSWと協力し、「子どもの生活・学習支援事業(子どもの居場所)」の利用につながりました。

また、学校からの相談により、市のひとり親家庭支援担当が学校と連携し、保護者にひとり親家庭の支援制度や高校進学後の経済的支援等の情報提供を行うなど、離婚後の生活の安定に向けた支援を実施しました。

【連携件数】 件数:85件、延べ回数:358回(9月末時点)

- 学校やSSW、教育委員会の各担当、社協の生活相談窓口、生活・学習支援事業委託先のNPO法人等と連携・情報共有し、支援しました。
- 生活習慣の乱れや社会性の不足など生活面の課題を抱える子どもに対して、居場所における相談支援、日常生活習慣の形成、社会性の育成のほか、体験活動等の取組、子どもや保護者に対する養育に必要な知識の情報提供、世帯全体の課題解決に向けた相談支援等の取組を実施しました。
⇒「子どもの生活・学習支援事業」13人(9月末時点)
⇒日本財団の「子どもの支援施設」7人(9月末時点)

今後の方向性

- ▶ 学校への年2回のデータ提供や関係機関と見守りシステム活用会議(月1回)を定例開催しながら、必要な際にすぐに連携し、支援につなぐことができるよう、取り組みを進めます。
- ▶ 「子どもの生活・学習支援事業」や日本財団の「子どもの支援施設『第三の居場所』(本市2箇所目)」について、委託先NPO法人や日本財団との連絡を密にし、保護者、児童にとって最も適切な支援策を提案できるように努めます。

③ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

- ◆子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届をきっかけに、すべての妊産婦や子育て中の保護者に対して、安心・安全ですこやかな妊娠・出産を支援するとともに、その後の子育て期へと切れ目のないサポートを目指す。

令和4年度上半期取り組み

- 妊娠届出時、すべての妊婦に対して、妊婦面接を行い支援プランを作成し、安心・安全ですこやかな妊娠・出産、産後をサポートしました。
- 令和4年度から産婦健康診査、新生児聴覚検査の助成を開始しました。医療機関と連携し、産後の心と身体健康維持や産後うつ防止、新生児の耳の聞こえにくさの早期発見に努めています。
(9月末時点)
〔妊娠届出数〕 371人(ハイリスク37人、要フォロー16人、特定妊婦3人)
〔産婦健康診査〕 助成件数:591件(対象者:403人、うち病院からの情報提供数19人)
〔新生児聴覚検査〕 助成件数:305件(対象者305人、うち精密検査へのつなぎ1人)
- 核家族化により、家族等から十分な育児等の援助が受けられない産婦及びその子どもを対象に、病院等における宿泊型・日帰り型産後ケア、利用者の居宅等を訪問する訪問型産後ケアを実施し、産後の心身の不調や産後うつにつながる孤立化の防止に取り組みました。
〔産後ケア〕 訪問型:40回(16人)、日帰り型:49回(15人)、宿泊型:23回(12人)(9月末時点)

- 4～9月の子育てサロンについては、新型コロナウイルスの影響により一部中止しましたが、育児相談会、両親学級、乳幼児健康診査については、感染防止対策を行い実施し、必要な時に相談できる場を設けることで孤立化の防止に努めています。

今後の方向性

- ▶ 現在実施している対象者全体へのアプローチを継続して行い、ニーズの聞き取り及び情報の提供を継続していきます。
- ▶ 令和4年第3回定例会で、3歳6か月児健康診査における視覚の屈折検査の導入に係る補正予算を議決いただき、令和5年1月から3才6か月児健診に新たに屈折検査を導入し、子どもの弱視の早期発見、早期治療につなげていくよう取り組みます。

④ すべての子どもが安心できる幼児教育の実施

- ◆市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るとともに、すべての子どもが安心できる就学前教育保育・支援教育保育のあり方を研究するため、公立・私立を問わず、人材開発及びインクルーシブに関する調査研究等を実施する(仮称)箕面市幼児教育センターを2022年度中に設置する。

令和4年度上半期取り組み

- 令和4年3月開催の令和3年度第4回総合教育会議での議論を経て、正式な名称を「保育・幼児教育センター」とし、令和4年4月に保育・幼児教育センター準備室を開室しました。
- 包括連携協定を締結している各大学(梅花女子大学、大阪青山大学、大阪総合保育大学)の学識経験者等を講師として、箕面市内の保育・幼児教育施設を対象に各種研修会を開催しました。(10回延べ1,076人参加(オンデマンド配信への参加者を含む))(9月末時点)
- 幼児教育サポーターによる市内54か所の保育・幼児教育施設への巡回訪問を実施しました。(63回)
- 就学前保育・幼児教育カリキュラムや架け橋期カリキュラムの作成に向けて準備を進めました。
- 「第一回箕面市架け橋期カリキュラム開発検討会議」を開催しました。(7月22日開催)
- 「第二回箕面市架け橋期カリキュラム開発検討会議」を開催しました。(9月13日開催)

今後の方向性

- ▶ 保育・幼児教育センターを令和4年10月1日に開設し、公・民や施設種別の垣根を越えて、市内就学前施設における保育・幼児教育全体の質の向上をめざした取り組みを進めていきます。
- ▶ 研修会でいただいたご意見を参考に、次年度の研修計画を立てていきます。
- ▶ 民間の就学前施設からもご意見をいただきながら、令和6年3月に、箕面市就学前保育・幼児教育カリキュラムの完成をめざします。
- ▶ 引き続き「箕面市架け橋期カリキュラム開発検討会議」を開催し、大学教授の助言をいただきながら、モデル地域としている萱野小学校や萱野保育所・かやの幼稚園・なか幼稚園、民間就学前施設、保護者の皆さんと一緒に幼児教育と小学校教育の滑らかな接続について検討を進めます。

⑤ 子育て支援と外出促進

- ◆子育て中の保護者が、どんなことでも気軽に相談できるよう、ICTを活用し、相談体制を整える。また、子育て世代の親子が孤独感なく日々過ごすことができるように、地域とのつながりをつくる機会として、気軽に集える、過ごせる場を数多く設ける。
- ◆市内公園においては、「幼児ユニット」を設置し、交流を促進する環境を整える。

令和4年度上半期取り組み

- 面談や電話だけでなく、メールでも相談を受付けるようにしました。
相談件数208件(面談195件、電話13件)(9月末時点)
- 8つの子育てプログラムのうち2つを電子申請(Logo フォーム)により電子申請いただけるようにしました。
- 室内の感染予防のため人数や時間を制限しながら、安心安全に遊べる環境を整えて実施しました。
(9月末時点)
オープンスペース:4,318組、年齢限定オープンスペース:93回657組、子育てプログラム:69回593組、出張子育てひろば:83回824組、おひさまデイ:17回31組
- コロナ禍でも気軽に集える「お外で遊ぼう」のプログラムを出来る限り多く実施しました。
実施回数:9回(阿比太公園2回、桜南公園1回、当対池公園1回、箕面北公園1回、仁鳥公園1回、瀬川中公園1回、皿池公園1回、ぴあぴあランド1回)
参加人数:128組参加(9月末時点)
- 本年度整備予定の4公園(山麓公園、西脇公園、皿池公園、芦原公園)の「幼児ユニット」のうち、芦原公園の整備に着手しました。

今後の方向性

- ▶ 感染予防しながら、地域で親子が集える場を開催していきます。
- ▶ 面談や電話に加え、メールによる相談も受付けていることをホームページに加えおひさまメール等でも周知します。
- ▶ 予約申込は電話受付に加え、電子申請(Logo フォーム)の活用も順次増やしていきます。
- ▶ 子育てプログラムにシルバーアドバイザーに協力いただくよう努めます。
- ▶ 上半期に続き、気候のよい時期に地域の公園で幼児ユニットのある公園も活用し、「お外で遊ぼう」のプログラムを出来る限り多く実施するよう努めていきます。
- ▶ 市内公園において「幼児ユニット」の整備を進め、交流を促進する環境を整えます。

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

- ◆乳幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちが世代を超えて気軽にダンスや体操などスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。
- ◆就職や子育てを機に、スポーツから遠ざかっている方々がスポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、身近な地域で気軽に参加できる環境を整備するとともに、積極的な情報発信に努める。
- ◆利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するため、体育施設の整備、備品維持管理に努める。

令和4年度上半期取り組み

- 利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を維持するために、「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」に基づき、スポーツ施設の設備や備品等の定期更新を実施しました。
- 各種スポーツ教室等への参加を促すため、広報紙や市ホームページ、「箕面市公式 Twitter」等を活用した情報発信を行いました。なかでも、広報紙においては、令和4年6月号からより対象者が明確になるよう記事レイアウトを見直しました。
- サントリーサンバーズとのイベントの運営に向けた検討を行いました。

今後の方向性

- ▶「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」を適切に運用し、定期更新を実施していきます。
- ▶引き続き、広報紙や市ホームページ、「箕面市公式 Twitter」等を活用し、スポーツ教室等の開催情報を効果的に発信していきます。また、スポーツ推進委員とも連携しながらウォーキングマップを作成し歩きやすい道等を発信することで、より身近な地域で気軽にスポーツに親しむことができる機会を創出し、健康増進を図っていきます。
- ▶サントリーサンバーズとの包括連携協定等を活かした事業を実施し、スポーツ活動を通じた地域の活性化や市民のスポーツ機会提供に向けた取り組みを協力して推進していきます。

② 図書館サービスの充実

- ◆社会のデジタル化進展を活かし、来館しなくても図書を利用できる電子図書館の活用について、学校教育や「はじめてのスマートフォン体験講座」などを通じて推進する。
- ◆乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進める。

令和4年度上半期取り組み

- 4月1日から電子書籍を約500冊増やして計約 2,000 冊とし、電子雑誌を100タイトル利用できるようにしました。今後、さらなるPRとコンテンツの充実を図っていきます。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
電子図書館	オーディオブック 再生回数	190回 (394回)	191回 (443回)	224回 (275回)	217回 (234回)	201回 (145回)	254回 (148回)
	電子書籍 貸出回数	475回 (854回)	436回 (1,251回)	499回 (841回)	786回 (705回)	694回 (709回)	493回 (407回)
	電子雑誌 閲覧回数	258回	131回	185回	140回	166回	106回

※電子雑誌については、令和4年4月1日から利用開始

※()は令和3年度同月の利用実績

- 4月から毎月「電子図書館使い方講座」を開催しました(5月を除く)。
- 4月から毎月「はじめてのスマートフォン体験講座」を開催しました(7・8月を除く)。

＜電子図書館使い方講座・はじめてのスマートフォン体験講座 参加人数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電子図書館使い方講座 (同日2回開催。定員各5人)	4人	申込なし	4人	5人	1人	7人
はじめてのスマートフォン体験講座 (定員20人)	12人	9人	11人	最少開催人数に達せず	申込なし	7人

- 令和4年3月から豊能町との図書館相互利用を正式に開始しました。

＜4月から9月までの豊能町との図書館相互利用実績＞

	貸出冊数	貸出者数
豊能町民が箕面市立図書館を利用	506冊 (295冊)	173人 (86人)
箕面市民が豊能町立図書館を利用	13,392冊 (10,107冊)	2,912人 (2,107人)

※()内は令和3年度の豊能町との図書館相互利用(試行)実績

- 昨年度オープンした船場図書館について、市民利用の促進を図りました。

＜船場図書館利用状況＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
貸出冊数	24,077冊	24,215冊 (1,275冊)	22,333冊 (11,438冊)	27,110冊 (30,356冊)	27,178冊 (32,339冊)	23,132冊 (26,596冊)
貸出人数	6,915人	6,996人 (536人)	6,582人 (3,125人)	7,585人 (8,071人)	7,522人 (8,648人)	6,831人 (7,553人)

※船場図書館は、令和3年5月1日にオープンしましたが、緊急事態宣言により同日から休館となり、実質的な開館日は令和3年6月21日です。

※()は令和3年度同月の利用実績

今後の方向性

- ▶ 移動図書館を令和4年度中に廃止することから、移動図書館利用者や、「はじめてのスマートフォン体験講座」受講者などデジタル活用が苦手な方にも、電子図書館利用のさらなる周知に取り組んでいきます。
- ▶ 「はじめてのスマートフォン体験講座」については、図書館や生涯学習センターにおいて引き続き毎月実施する予定です。
- ▶ 誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進め、図書館サービスの充実を図ります。

③ 生涯学習の場の充実

- ◆ 船場生涯学習センター、船場図書館、文化芸能劇場を活用した国際理解の推進、文化芸能活動の振興など、大阪大学との連携協力をしながら、社会のデジタル化も踏まえて生涯学習の場を充実する。
- ◆ 魅力ある史跡の保護・復旧を実施していくとともに、史跡巡りのイベントを関係団体や民間企業と連携しながら開催する。

令和4年度上半期取り組み

- 生涯学習センター各館において、生涯学習講座「春の講座」を実施しました。

	講座数	参加人数
春の講座	9 講座 (3 講座)	298 人 (203 人)

※()は令和3年度の講座実績

※令和3年度「春の講座」は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、8講座中5講座を中止しました。

- 船場図書館と船場生涯学習センターで連携し、6月と8月に図書館の活用方法に関する講座を実施しました。
- 「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ」の検討内容を踏まえたシンポジウムを7月23日に開催し、芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏による基調講演のほか、ワークショップメンバーらによるパネルディスカッションを行いました。(来場者数60人、オンライン視聴者数424人)
- 八天石蔵のうち6カ所及び町石3カ所について、大阪府等との調整を図り、補修・整備のための準備を進めました。
- 令和4年3月に初めて開催した「みのお八天石蔵ウォークトリアル」について、2回目の開催(令和5年3月予定)に向け検討を行いました。

今後の方向性

- ▶ 船場生涯学習センターでは、指定管理者である大阪大学の講師による生涯学習講座に加え、船場の文化芸能国際交流を推進していくため、国際交流協会とメイプル文化財団が連携講座を開催していきます。
- ▶ 子育て世帯に対する支援情報の共有や子どもとのコミュニケーションを啓発するために、子育て支援の講座を開催していきます。
- ▶ オンライン配信による生涯学習講座の実施に向けて調整していきます。
- ▶ 昨年度に引き続き「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ」を開催(5回開催予定)し、船場地区における文化芸能国際交流の取り組みの具体化をめざします。
- ▶ 市の文化財について、引き続き、保護・活用を進めていきます。
- ▶ 昨年度、初めて開催した「みのお八天石蔵ウォークトリアル」の定員を100人としていましたが、今後はより多くの方に参加していただきやすいように参加人数の再検討等を行います。